

11 広報関係

プレスリリース（令和5年度）

組織名 年月日	プレスリリースの内容
東 北 育種場 R5. 5. 30	タイトル：「カラマツ特定母樹展示林」の植栽について 岩手南部森林管理署と共同で設定したカラマツ特定母樹展示林へ、カラマツ特定母樹の植栽実施についてプレスリリースした。 （要旨） カラマツは岩手県を始めとした東北地方等において重要な林業樹種です。カラマツによる林業の発展と持続的な森林利用のためには「伐って、使って、植えて、育てる」という循環を継続させる必要があります。カラマツ特定母樹は、成長等の特性が特に優れたものとして指定されており、林業による森林の循環利用に貢献することが期待されています。特定母樹の優れた特性について、森林所有者、造林事業者、苗木生産者等に理解を深めていただき、特定母樹の苗木を積極的に活用いただくことが重要です。
東 北 育種場 R5. 10. 17	タイトル：いわて林業アカデミーによるカラマツ特定母樹の植樹について 岩手南部森林管理署と共同で設定したカラマツ特定母樹展示林へ、いわて林業アカデミーの研修生がカラマツ特定母樹を植栽することについてプレスリリースした。 （要旨） カラマツは東北地方等において重要な林業樹種です。今後とも、カラマツ林を持続的に利用していくためには「伐って、使って、植えて、育てる」という循環を継続させる必要があります。特定母樹（注1）は、成長等の特性が特に優れたものとして指定されており、林業による森林の循環利用に貢献することが期待されています。カラマツ特定母樹の優れた特性について、森林所有者、苗木生産者など、多くの林業関係者に理解を深めていただき、特定母樹由来の苗木を積極的に活用いただくことが重要です。 国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場と東北森林管理局岩手南部森林管理署は、「カラマツ特定母樹展示林に関する覚書」を署名しており、今回はこの覚書に基づきカラマツ特定母樹を広く普及する取組として、これからの林業の担い手の中核であるいわて林業アカデミーの学生によるカラマツ特定母樹のクローン苗木（つぎ苗木）の植樹を行います。
東 北 育種場 R6. 3. 19	タイトル：宮城県気仙沼市「田中浜のケヤキ」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 （要旨） 「田中浜のケヤキ」は、熊野神社境内の入口を示す目印として、約200年前に植栽されたものとい伝えられました。平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う津波被害により水没したものの生き残り、令和元年7月時点で樹高が約17m、幹周りが約2.7mの大木となっていました。 しかし、「田中浜のケヤキ」の植栽されていた土地が東日本大震災からの復旧に伴う海岸防災林造成事業の計画地に該当することとなったため、地域から遺伝子保存の要望があり、気仙沼地方振興事務所から林木遺伝子銀行110番の申請を受けて、東北育種場が後継樹を育成していました。令和2年2月に東北育種場が「田中浜のケヤキ」から穂木の採取を行い、つぎ木で10本増殖を実施した結果9本の苗木を育成することに成功しました。今回里帰りする苗木は、このうちの6本で、田中浜に植栽されます。 この苗木は、つぎ木により増殖させたクローン苗木であることから、親木と同じ遺伝子を持っており、二代目の「田中浜のケヤキ」として成長することが期待されます。
関 西 育種場 R5. 10. 25	タイトル：石の寺 教林坊の境内を彩る「教林坊のモミジ」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 （要旨） 今回里帰りする「教林坊のモミジ」は、滋賀県近江八幡市の「教林坊」に所在する、樹高約6m、樹齢約100年のイロハモミジです。教林坊は、西暦605年に聖徳太子によって創建されたと伝えられる歴史ある寺院であり、「石の寺」とも呼ばれています。「教林坊のモミジ」は、その境内に植栽されたもので、毎年、秋の紅葉シーズンにはライトアップされ、紅葉の名所として地域の人々から大変親しまれています。しかしながら、近年、「教林坊のモミジ」の1本が根腐れにより、樹勢が非常に衰えていました（現在は枯死）。 このことから、教林坊から関西育種場に対し、「教林坊のモミジ」の後継樹の増殖依頼がありました。令和元年10月に関西育種場職員が現地にて7本の枝を採取し、その枝をもとに、同年10月に13本をつぎ木した結果1本が成功しました。令和4年の1月にその苗木からさらに増殖用の枝を採取し、同年3月につぎ木したところ9本の苗木増殖に成功しました。その後苗木は順調に生育し、屋外に植栽しても生育できる見込みとなったことから、このうち3本がこの度、教林坊に里帰りすることになりました。

組織名 年月日	プレスリリースの内容
関 西 育種場 R6. 3. 1	タイトル：国指定天然記念物「口大屋の大アベマキ」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 （要旨） 「口大屋の大アベマキ」は、兵庫県養父市大屋町中に所在し、国指定天然記念物に指定されているアベマキです。樹高約16m、幹廻り約5.6m、樹齢約400年の巨木で、枝張りもよく、風格もあるアベマキです。しかしながら、カシノナガキクイムシの被害を受け、樹勢が大きく衰退する恐れがありました。 このことから、養父市長から関西育種場に対し、「口大屋の大アベマキ」の後継樹の増殖要請がありました。令和3年2月に関西育種場職員が現地で枝を採取し、その枝をもとに、同年3月に37本をつぎ木した結果9本が成功しました。その後苗木は順調に生育し、屋外に植栽しても生育できる見込みとなったことから、このうち2本が、この度、兵庫県養父市に里帰りすることになりました。なお、「口大屋の大アベマキ」は、現在は防虫対策により樹勢を維持しています。
九 州 育種場 R6. 2. 27	タイトル：力合小シンボルツリー「トネリコ」の後継樹が里帰りー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー 林木遺伝子銀行110番で増殖、育成した苗木の里帰りについてプレスリリースした。 （要旨） 今回里帰りする後継樹の親木は、熊本市立力合小学校のシンボルツリーである「トネリコ」です。大正14年（1925年）に同校児童の保護者から児童の卒業記念に苗木が学校に寄贈、植栽され、幹周り約3m、樹高は約14.3mと3階建ての校舎を超える程に大きくなっていました。学校のシンボルツリーとして、創立140周年を記念して作曲された「トネリコの歌」を放送委員会の子供たちが毎日校内放送で流すほど、地域の方々も含め多くの人に親しまれ、大切に守られてきました。しかし、樹幹の腐食により倒れる危険性があったため、令和3年11月にやむを得ず伐採されました。令和3年10月に力合小学校から九州育種場へ後継樹の増殖が要請され、当育種場の温室においてさし木で増殖を実施し、5本の苗木を育成することができました。このうち2本が令和6年3月5日に力合小学校に里帰りし、力合小学校の児童代表と教職員の手により記念植樹されることとなりました。
九 州 育種場 R6. 3. 27	タイトル：林木育種センター九州育種場が九州育種基本区のスギエリートツリー特性表を公表！ー林業関係者の系統選択をサポートー 九州育種基本区で特定母樹に指定されたスギエリートツリー18系統の特性情報を取りまとめた「エリートツリー特性表（九州育種基本区・スギ）」についてプレスリリースした。 （要旨） 林木育種センター九州育種場は、エリートツリー特性表（九州育種基本区・スギ）を作成しました。この特性表は、特定母樹に指定された18系統のエリートツリーの成長・材質・繁殖の特性を評価したものです。これにより、林業関係者は、各ユーザーに適した系統の選択が容易になり、優良種苗の生産や優良種苗による森林整備に役立てることが出来ます。本特性表は、2024年3月27日に林木育種センター九州育種場のHPで公表されます。 ポイント ・九州育種基本区で特定母樹に指定されたスギエリートツリー18系統の特性情報を公表 ・林業関係者が系統を選択する際のサポート情報として活用可能 ・カーボンニュートラルの達成やスギ花粉発生源対策の推進への貢献を期待